

北九州市営渡船小倉航路のあり方会議

報 告 書

平成30年3月

北 九 州 市

目 次

はじめに	1
(1) 目的	1
(2) 報告書とあり方会議の流れ	1
(3) あり方会議の概要	2
第1章 現況調査	3
(1) 小倉航路の概況	3
(2) 藍島・馬島の現状	8
第2章 航路診断	17
(1) 航路利用の概況	17
(2) 航路診断	24
第3章 経営診断	30
(1) 航路経営の概況	30
(2) 航路損益計算書の分析	33
(3) 収支シミュレーション（趨勢の場合）	39
第4章 島民・島外利用者アンケート調査結果	40
(1) 調査概要	40
(2) 調査結果	41
①島民アンケート調査	41
②島外利用者アンケート調査	54
第5章 重点課題の設定	65
第6章 航路改善計画	66
(1) 航路改善方策の基本的な考え方	66
(2) 航路改善のための具体的取り組み	67
(3) 島民・市・関係機関が一体となった島の活性化への取り組み	70
参考資料 アンケート調査票	73

はじめに

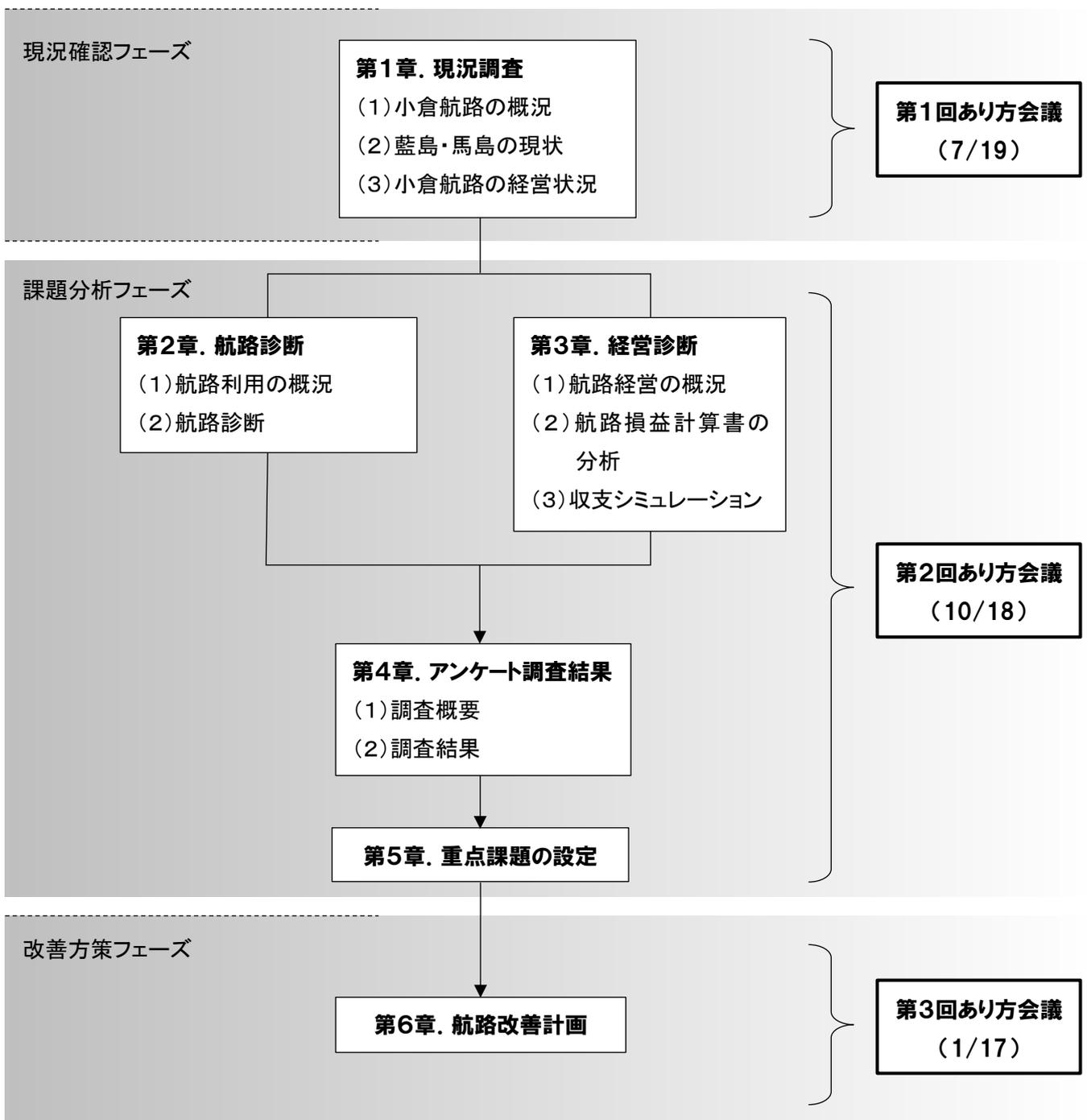
(1)目的

「北九州市営渡船小倉航路のあり方会議（以下、「あり方会議」という）」は、持続可能な小倉航路を実現するために、航路診断、経営診断、将来の経営予測などにより本航路の課題を分析し、改善のための方策を策定するため、島民や学識経験者などの構成員から意見を聴取するもの。

(2)報告書とあり方会議の流れ

報告書の各章とあり方会議の流れは次のとおりである。

図表 各章とあり方会議の流れ



(3)あり方会議の概要

あり方会議は、地元利用者代表、学識経験者、関係機関、国・県・市で構成し、平成29年7月19日を第1回とし計3回開催した。開催概要並びに構成メンバーは以下のとおりである。

図表 北九州市営渡船小倉航路のあり方会議 開催概要

	日時・場所	協議内容
第1回	日時：平成29年7月19日（水） 14：30～16：30 場所：AIMビル3階315会議室	(1) あり方会議の開催目的と進め方について (2) 小倉航路の現状について (3) あり方会議での論点について (4) アンケート調査について
第2回	日時：平成29年10月18日（水） 14：30～16：30 場所：北九州国際会議場2階 21会議室	(1) 小倉航路の航路診断について (2) アンケート調査結果について (3) 小倉航路の経営診断について
第3回	日時：平成30年1月17日（水） 14：30～16：30 場所：AIMビル3階315会議室	(1) 航路改善計画（案）について

図表 北九州市営渡船小倉航路のあり方会議 構成員

(50音順 敬称略)

	氏名	所属等
1	池田 伸広	国土交通省九州運輸局福岡運輸支局次長
2	岩佐 孝徳	福岡県企画・地域振興部交通政策課長
3	岩本 恵子	馬島住民代表
4	薄墨 徳光	国土交通省九州運輸局海事振興部離島航路活性化調整官
5	齊藤 久美	(株)SAKU 代表取締役
6	島田 重信	馬島自治会長
7	田中 規雄	北九州市産業経済局総務政策部長
8	田中 ひろみ	北九州市立大学地域戦略研究所 特任准教授
9	西田 知世	(公財)北九州観光コンベンション協会 観光戦略担当課長
10	西田 義治	北九州市漁業協同組合馬島地区代表理事
11	濱崎 勉	藍島自治会長
12	【会長】福島 規子	九州国際大学 教授
13	村上 理恵	北九州市立藍島小学校 教諭
14	百々 美香	マーケティングプランナー
15	吉村 晃子	藍島住民代表
16	両羽 達夫	ひびき灘漁業協同組合藍島地区代表理事

第1章 現況調査

(1)小倉航路の概況

①概況

小倉航路は、藍島・馬島の島民にとって、通院や買い物などをする交通手段として、また、生活物資の輸送手段として必要不可欠な生活航路であり、島民の民生安定に必要不可欠な航路である。しかしながら、近年の過疎化・高齢化の進展により、利用者の減少などにより厳しい経営状況となっている。

②運航形態

営業距離は、小倉、馬島、藍島を繋ぐ、17.3kmとなっており、小倉～馬島間を20分、小倉～藍島間を35分で結んでいる。

運航回数は、小倉～藍島・馬島間を1日3便運航しており、始発・終着は藍島である。また、運航ダイヤは、月曜日から金曜日、土曜日、日曜日・祝日の3つのパターンとなっている。

運賃は、大人で小倉～馬島間は280円、小倉～藍島間は400円である。

図表 小倉航路 航路図



図表 小倉航路概要

航路距離	17.3 km	所要時間	小倉—藍島 35 分 小倉—馬島 20 分
運賃	小倉—藍島	400 円	キロ単価 23.1 円/km (※小倉—藍島間より算定)
	小倉—馬島	280 円	
便数	3 便/日		

図表 小倉航路使用料

【普通運賃】

種別	区間	大人	小児
普通券	小倉～藍島	400 円	200 円
	小倉～馬島	280 円	140 円
	馬島～藍島	120 円	60 円

【往復運賃】

- (1) 小倉から乗船し、当該乗船地と馬島又は藍島の間を往復する場合は、普通運賃の倍額とする。
 (2) 馬島又は藍島から乗船し、当該乗船地と小倉、馬島又は藍島の間を往復する場合は、次のとおり。

区間	大人	小児
藍島～小倉	560 円	280 円
馬島～小倉	400 円	200 円
馬島～藍島	170 円	90 円

【割引運賃】

(1) 定期券運賃

種別	区間	1 月
通勤定期	小倉～藍島	7,200 円
	小倉～馬島	5,040 円
通学定期	小倉～藍島	4,800 円
	小倉～馬島	3,360 円

(2) 回数券運賃

回数券は 11 回分とし、普通運賃の 10 倍の額とする。

(3) 団体旅客運賃(15 人以上の団体旅客(学生団体旅客にあつては付添人を含む。))に係る運賃をいう。

ア 一般団体旅客運賃は、普通運賃を 1 割引したものとする。

イ 学生団体旅客運賃は、普通運賃を 5 割引したものとする。

ウ ア及びイの規定により算定した額に 10 円未満の端数を生じたときは、これを切り上げるものとする。

【手荷物運賃】

乗客の携行する荷物(常時携行する身の回りの品を除く。)は、重量 15 キログラム以内で容積 0.7 立方メートルを超えない範囲のものとし、当該荷物 1 個につき貨物運賃の「30 キログラム以下」のものと同一運賃を徴収する。ただし 1 個を限り無料とする。

【小荷物運賃】

託送する荷物は、重量 15 キログラム以内で容積 0.7 立方メートルを超えないもの 1 個につき貨物運賃の「30 キログラム以下」のものと同一運賃を徴収する。

【貨物運賃】

重量 \ 区間	小倉～藍島	小倉～馬島	馬島～藍島
30 キログラム以下	60 円	40 円	40 円
60 キログラム以下	120 円	80 円	80 円
60 キログラムを超えるもの	30 キログラムまでを増すごとに 60 円を増す	30 キログラムまでを増すごとに 40 円を増す	30 キログラムまでを増すごとに 40 円を増す

図表 運航ダイヤ(通常期)

	のぼり			くだり		
	藍島発	馬島着 馬島発	小倉着	小倉発	馬島着 馬島発	藍島着
月曜日から 金曜日	7 時 00 分	7 時 10 分 7 時 13 分	7 時 45 分	10 時 30 分	10 時 50 分 10 時 52 分	11 時 05 分
	13 時 30 分	13 時 40 分 13 時 43 分	14 時 05 分	14 時 30 分	14 時 50 分 14 時 52 分	15 時 05 分
	15 時 30 分	15 時 40 分 15 時 43 分	16 時 05 分	17 時 30 分	17 時 50 分 17 時 52 分	18 時 05 分
土曜日	7 時 00 分	7 時 10 分 7 時 13 分	7 時 45 分	10 時 30 分	10 時 50 分 10 時 52 分	11 時 05 分
	13 時 00 分	13 時 10 分 13 時 13 分	13 時 35 分	14 時 00 分	14 時 20 分 14 時 22 分	14 時 35 分
	16 時 30 分	16 時 40 分 16 時 43 分	17 時 05 分	17 時 30 分	17 時 50 分 17 時 52 分	18 時 05 分
日曜日 ・祝日	7 時 00 分	7 時 10 分 7 時 13 分	7 時 35 分	9 時 00 分	9 時 20 分 9 時 22 分	9 時 35 分
	14 時 30 分	14 時 40 分 14 時 43 分	15 時 05 分	15 時 30 分	15 時 50 分 15 時 52 分	16 時 05 分
	16 時 30 分	16 時 40 分 16 時 43 分	17 時 05 分	17 時 30 分	17 時 50 分 17 時 52 分	18 時 05 分

図表 運航ダイヤ(多客期(7/20~8/10))

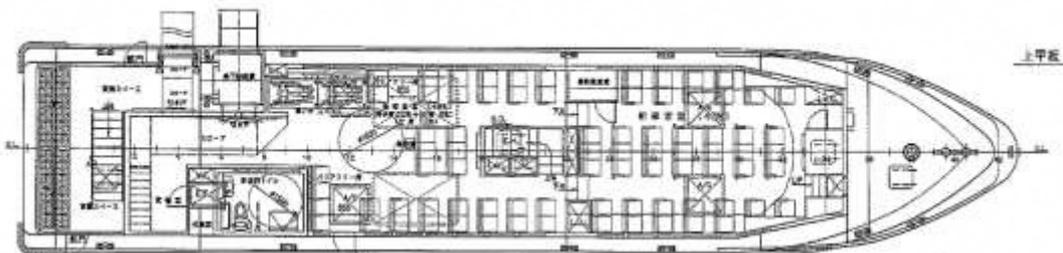
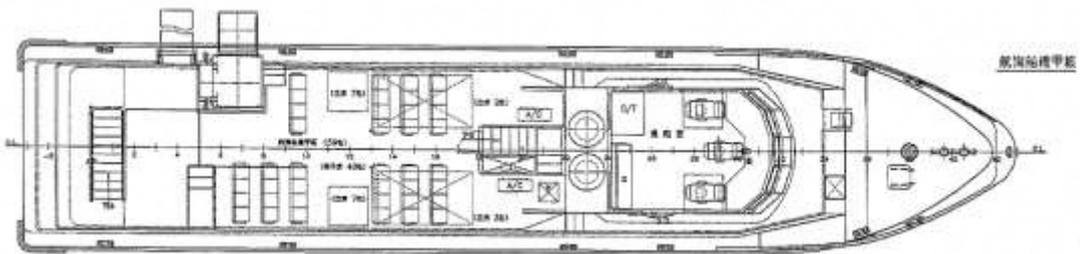
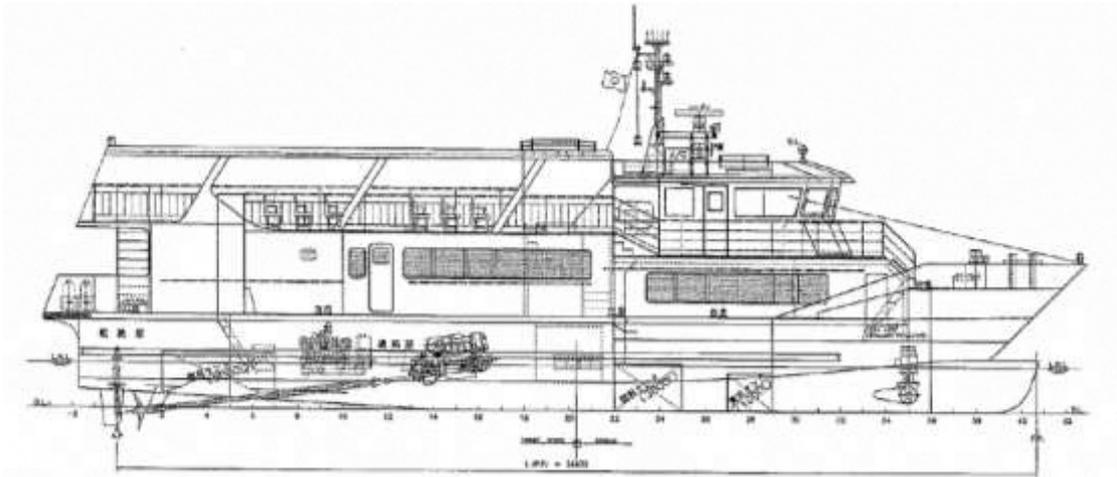
	のぼり			くだり		
	藍島発	馬島着 馬島発	小倉着	小倉発	馬島着 馬島発	藍島着
月曜日から 金曜日	7時00分	7時10分 7時13分	7時45分	10時30分	10時50分 10時52分	11時05分
	13時30分	13時40分 13時43分	14時05分	14時30分	14時50分 14時52分	15時05分
	15時30分	15時40分 15時43分	16時05分	17時30分	17時50分 17時52分	18時05分
土曜日・日 曜日・祝日	7時00分	7時10分 7時13分	7時45分	8時30分	8時50分 8時52分	9時05分
	9時30分	9時40分 9時43分	10時05分	10時30分	10時50分 10時52分	11時05分
	14時30分	14時40分 14時43分	15時05分	15時30分	15時50分 15時52分	16時05分
	16時30分	16時40分 16時43分	17時05分	17時30分	17時50分 17時52分	18時05分

図表 運航ダイヤ(年始(1/1~1/4))

のぼり			くだり		
藍島発	馬島着 馬島発	小倉着	小倉発	馬島着 馬島発	藍島着
9時00分	9時10分 9時13分	9時35分	10時30分	10時50分 10時52分	11時05分
15時30分	15時40分 15時43分	16時05分	16時30分	16時50分 16時52分	17時05分

図表 使用船舶

名称	こくら丸	主機関	720 Kw × 2
総トン数	95 G T	速力 (航海速力)	18.0 K T
長さ × 幅 × 深さ	27.8m × 5.6m × 2.5m	旅客定員 (船員)	150名 (5名)



(2) 藍島・馬島の現状

① 地勢

藍島は、北九州市の北4.2kmの響灘に位置し、南北に細長く起伏の小さい平坦な島で、海岸は沈降性で岩礁帯が連続しており、周囲は良好な漁場となっている。

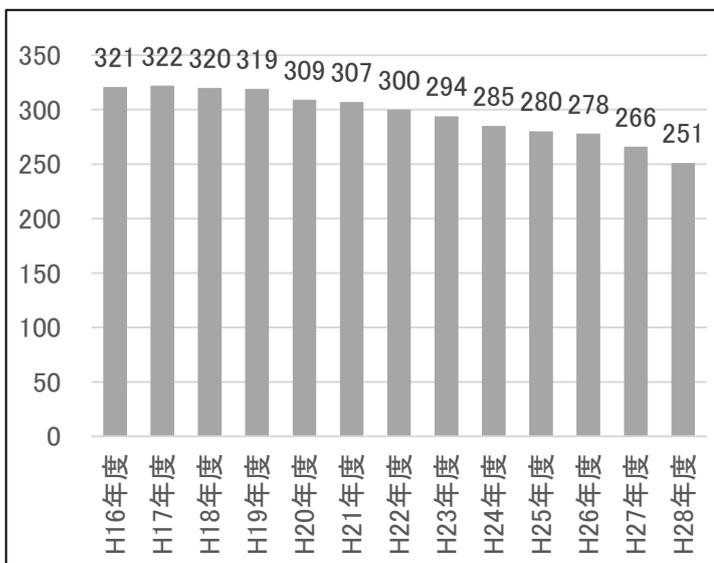
一方、馬島は、北九州市の北2.6kmの響灘に位置し、標高20mほどの丘陵が連なる台地の島で、海岸は岩礁や入り江が多く、北側には浸食が見られる。

② 藍島の現状

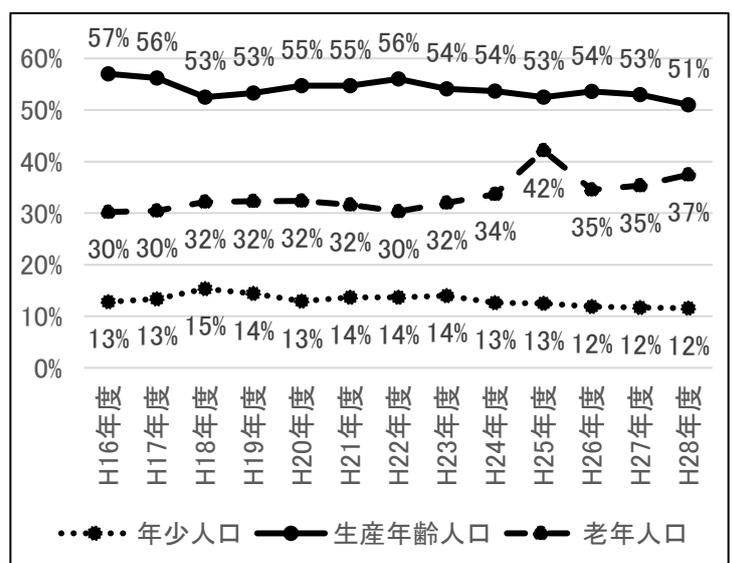
藍島の人口は平成28年9月末現在251人、世帯数は116世帯、平均世帯人員は2.2人/世帯となっている。人口は平成18年以降減少傾向にあり、毎年10人前後減少している。

少子高齢化が進行しており平成28年9月末現在、高齢化率は37%となっている。年齢別人口をみると50～64歳の人口が多いことから、現在のままでは今後10～15年で急激に高齢化率が上昇する可能性がある。

図表 人口推移（単位：人）

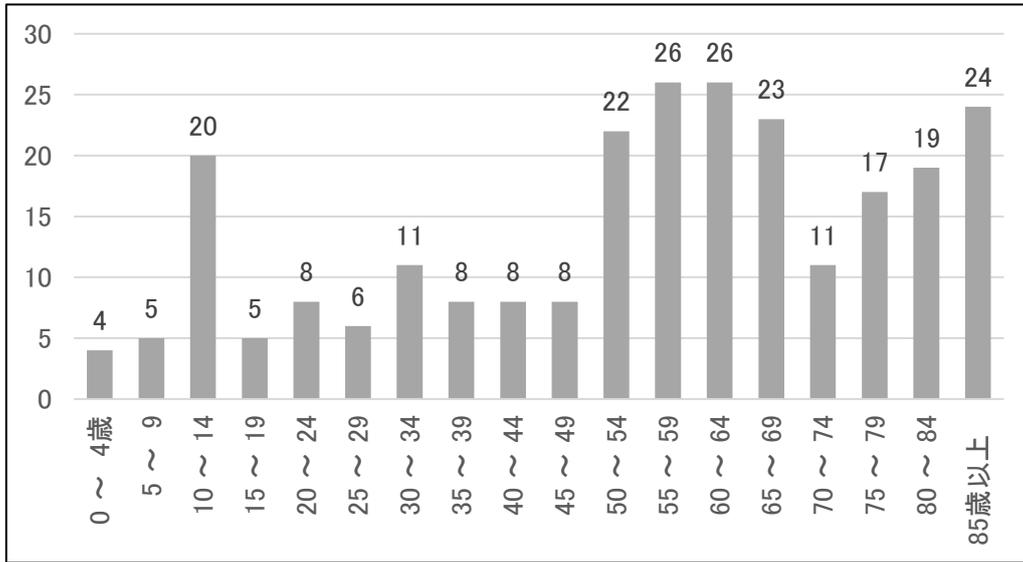


図表 年齢3区分別人口構成比



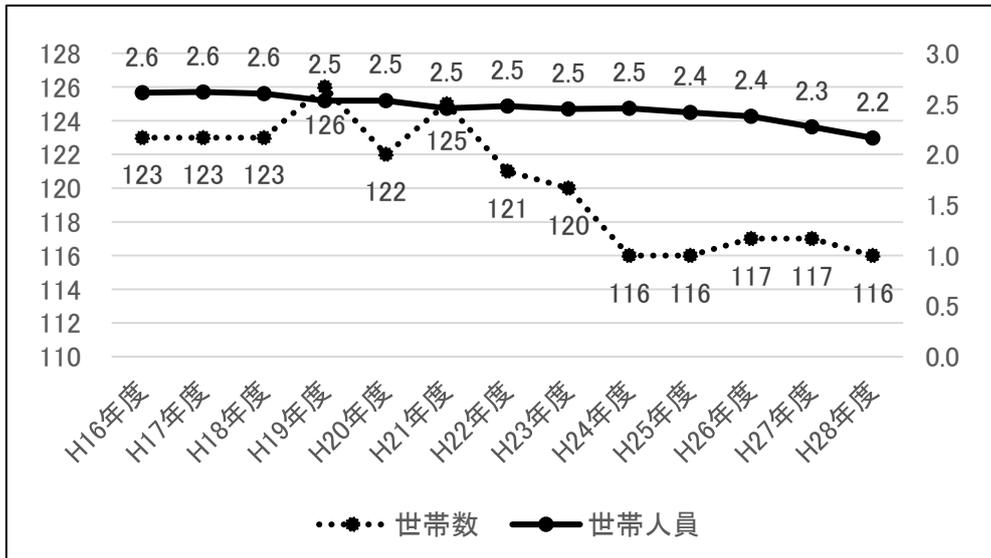
資料) 住民基本台帳を基に作成 (9月末現在)

図表 年5歳階級別人口（単位：人）



資料) 住民基本台帳を基に作成（平成28年9月末現在）

図表 世帯数・平均世帯人員（単位：〔左軸〕世帯、〔右軸〕人/世帯）



資料) 住民基本台帳を基に作成（9月末現在）

図表 藍島地図

(全体図)



(拡大図)



Google 画像@2017DigitalGlobe、地図データ@2017 ZENRIN

船付場



集落の様子



待合所



藍島小学校



待合所



藍島市民サブセンター



藍島遠見番所旗柱台(県指定史跡)



商店

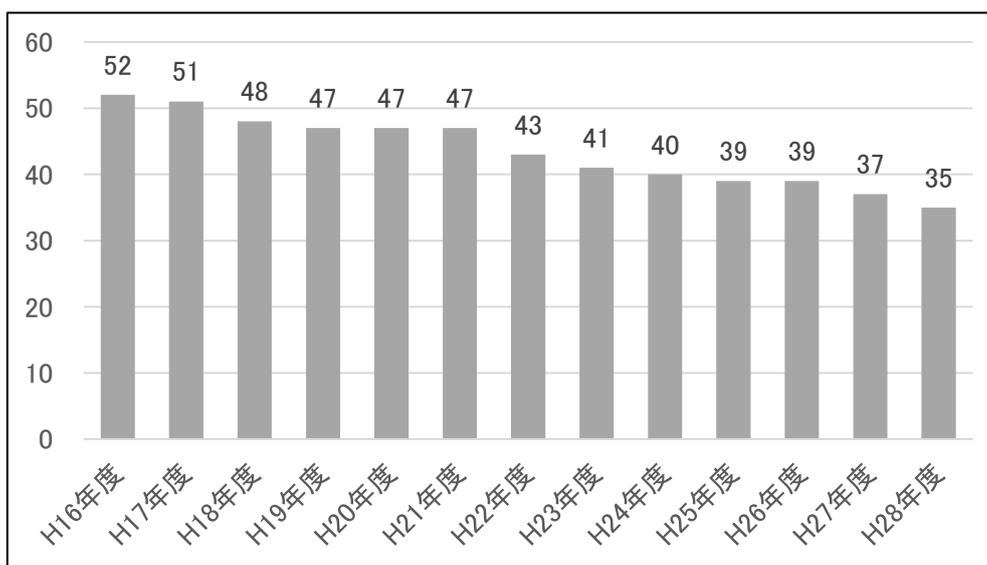


③馬島の現状

馬島の人口は平成 28 年 9 月末現在 35 人、世帯数は 14 世帯、平均世帯人員は 2.5 人/世帯となっている。人口は平成 22 年以降減少傾向にある。

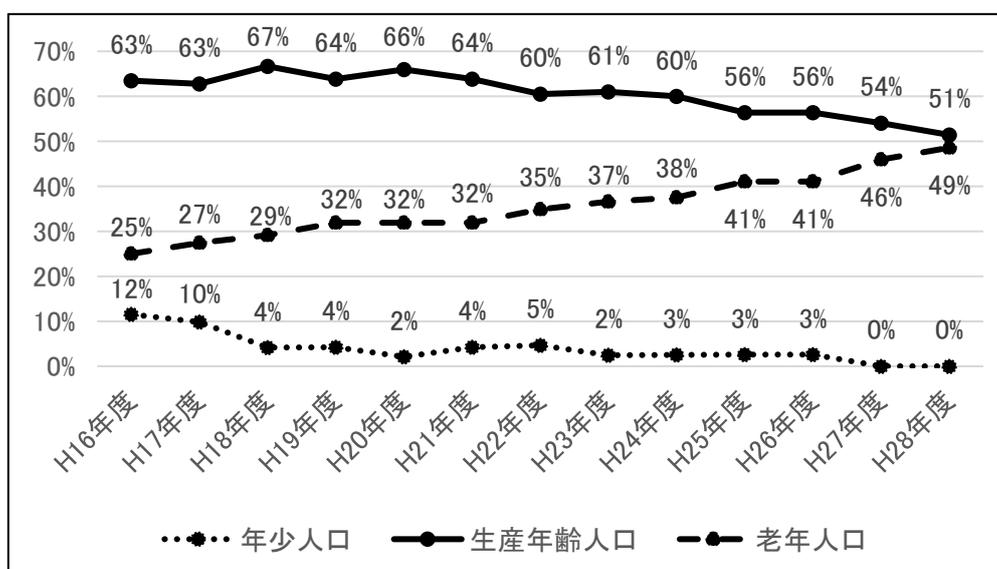
少子高齢化は藍島よりも進行しており平成 28 年 9 月末現在、高齢化率は 49%と半数が高齢者である。年齢別人口をみると 50～64 歳の人口が多いことから、現在のままでは今後 10～15 年で島民の大部分が高齢者となる可能性がある。

図表 人口推移（単位：人）



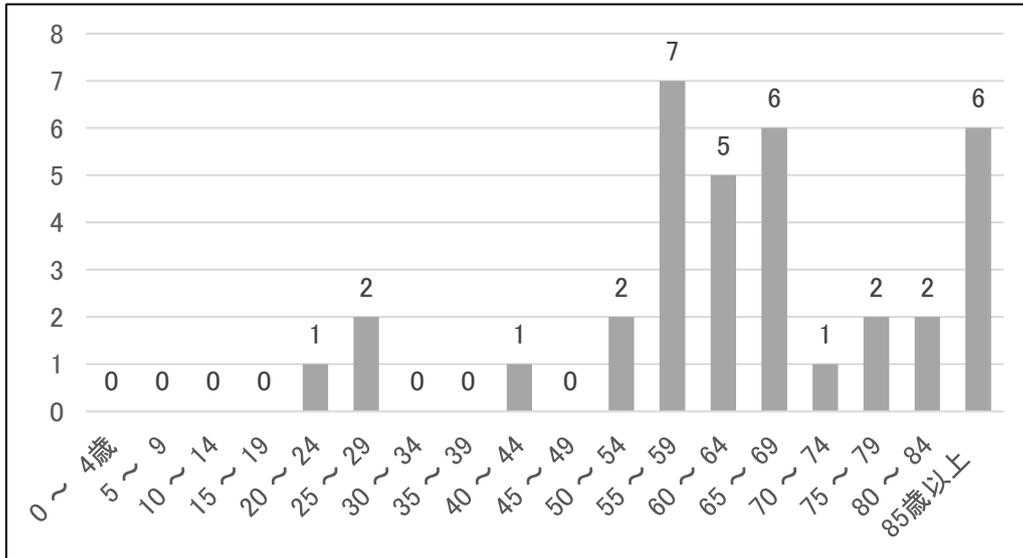
資料) 住民基本台帳を基に作成 (9 月末現在)

図表 年齢3区分別人口構成比



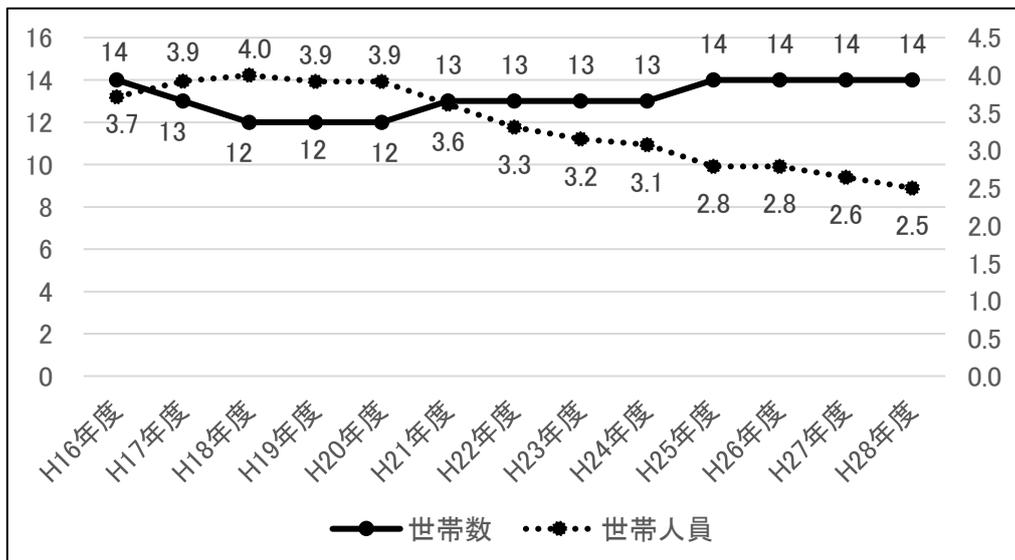
資料) 住民基本台帳を基に作成 (9 月末現在)

図表 年5歳階級別人口（単位：人）



資料) 住民基本台帳を基に作成（平成 28 年 9 月末現在）

図表 世帯数・平均世帯人員（単位：〔左軸〕世帯、〔右軸〕人/世帯）



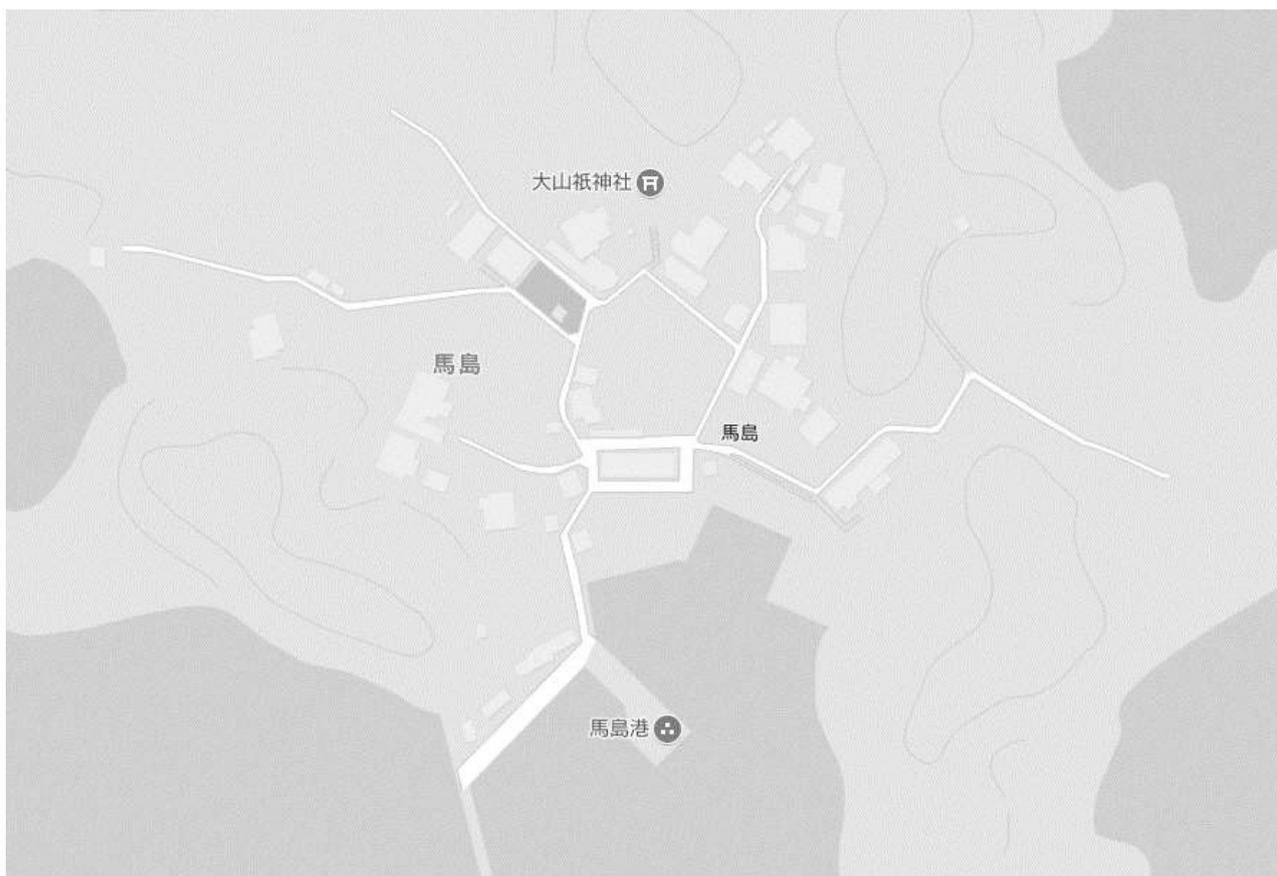
資料) 住民基本台帳を基に作成（9 月末現在）

図表 馬島地図

(全体図)



(拡大図)



Google 画像@2017DigitalGlobe、地図データ@2017 ZENRIN

船付場



港の様子(ワケギの球根)



待合所



砂浜(島の南東に面する)



待合所



馬島診療所



大山祇神社



集落の道路



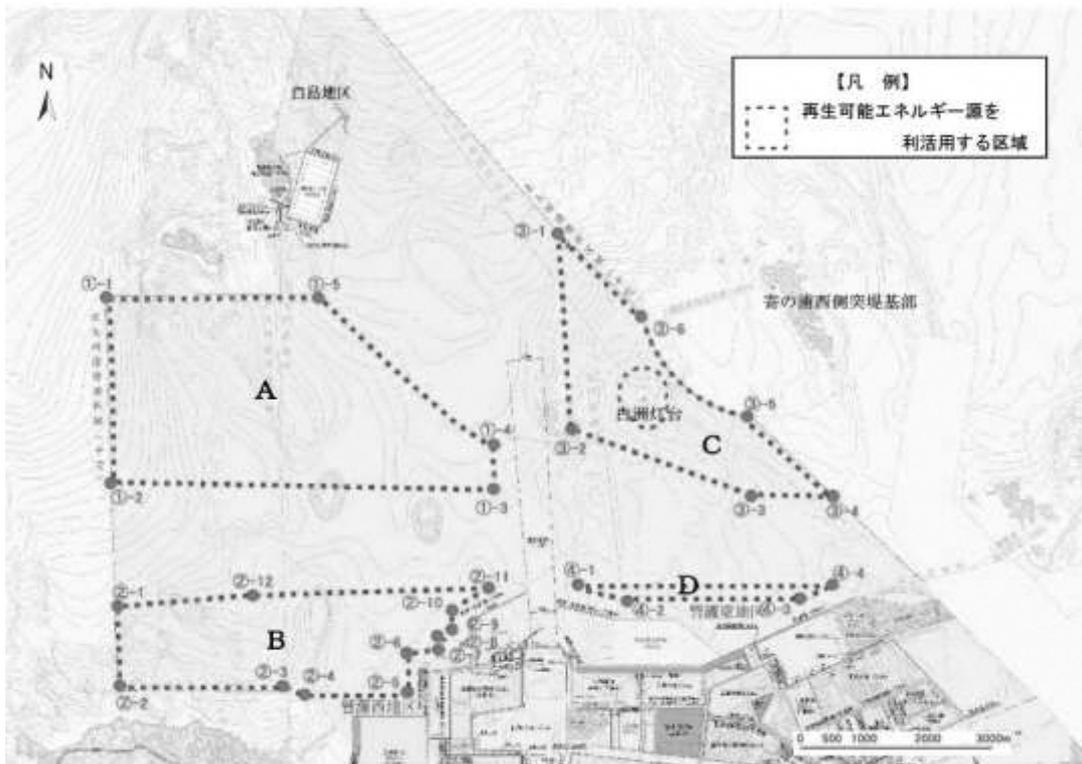
④周辺での関連事業 ～響灘洋上風力発電施設の設置について～

両島の西側海域にあたる響灘では、九電みらいエネルギー株式会社を始めとするコンソーシアムによる洋上風力発電設備の設置計画が決定されている。

工事・メンテナンス関係者の往来、グリーンツーリズム客の来訪により、当該海域の交流人口の増加が期待される。

図表 響灘洋上風力発電事業の概要

風車基数	最大 44 基
総事業費	1,750 億円程度
スケジュール	平成 34 年度～ 着工、順次運転開始



(イメージ)

